

感染症発生動向調査事業における宮崎県の患者発生状況 －2023 年（令和 5 年）－

山口凌 古澤優¹⁾ 三浦美穂²⁾ 吉野修司²⁾ 藤崎淳一郎

Summary of the 2023 Annual Report According to the National Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases in Miyazaki Prefecture

Yamaguchi Ryo, Furusawa Yu, Miura Miho, Yoshino Shuji, Fujisaki Junichiro

要旨

2023 年に県内では全数把握対象 91 疾患中、25 疾患が報告された。疾患別では結核（105 例）、梅毒（166 例）、つつが虫（33 例）の報告が多かった。梅毒は 2022 年に過去最も多い報告数（116 例）となったが、それを上回る報告数となった。なお、新型コロナウイルス感染症は、令和 4 年 9 月 26 日から発生届の対象が限定され、報告方法が総数のみの報告へと変更¹⁾となり、令和 5 年 5 月 8 日からはインフルエンザ等と同様の 5 類定点把握対象疾患²⁾となった。

定点把握対象疾患のうちインフルエンザ及び小児科対象疾患については、報告総数が前年の約 2.3 倍、例年の約 1.7 倍、全国の約 1.4 倍であった。眼科定点対象疾患の報告総数は、前年の約 2.5 倍、例年の約 0.9 倍、全国の約 2.2 倍であった。基幹定点対象疾患の報告総数は、前年の約 4.0 倍、例年及び全国の約 0.1 倍であった。月報告対象疾患の性感染症の報告総数は、前年及び例年の約 1.1 倍、全国の約 0.6 倍であった。薬剤耐性菌感染症の報告総数は、前年の約 0.9 倍、例年の約 1.1 倍、全国と同程度であった。

キーワード：感染症発生動向調査事業、宮崎県、全数把握、定点把握

はじめに

当研究所では、1994 年（平成 6 年）から感染症発生動向調査事業に基づいて感染症情報の収集と解析を行ってきた。解析した情報は週報や月報として医療機関や県民に情報提供し、感染症の発生及び拡大の防止並びに公衆衛生の向上に努めている。

今回、本県における 2023 年（令和 5 年）の患者発生状況をまとめたので報告する。

調査方法

1 対象疾患及び定点医療機関

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）で定められた 116 疾患を調査対象とした。

指定届出医療機関（以下「定点」という。）は、感染症発生動向調査事業実施要綱³⁾に基づき選定した（表 1）。

表 1 保健所別指定届出医療機関（定点数）

保健所名	定点種別				
	インフルエンザ 新型コロナ	小児科	眼科	基幹	STD
宮崎市	16	10	3	1	4
都城	10	6	2	1	2
延岡	7	4	1	1	2
日南	5	3		1	1
小林	4	3		1	1
高鍋	6	4		1	2
高千穂	2	1			
日向	6	4		1	1
中央	2	1			
計	58	36	6	7	13

企画管理課 ¹⁾ 現県立宮崎病院 ²⁾ 元衛生環境研究所

2 調査期間

全数把握対象疾患、定点把握対象疾患については 2023 年 1 週から 52 週まで、インフルエンザについては 2023/2024 年シーズンの 2023 年 41 週から 2024 年 14 週までをそれぞれ調査期間とし、診断日をもとに集計した。なお、新型コロナウイルス感染症については報告日をもとに集計した。

結果

1 全数把握対象疾患の発生状況

1) 一類感染症

報告はなかった。

2) 二類感染症

結核 105 例が報告された。

a) 結核 Tuberculosis

報告数は 105 例で、前年 (123 例) の約 0.9 倍であった。病型は、肺結核が 42 例、その他の結核 (結核性胸膜炎、頸部リンパ節結核等) が 22 例、肺結核及びその他の結核 (粟粒結核、結核性胸膜炎) が 2 例、疑似症患者が 1 例、無症状病原体保有者が 38 例であった。宮崎市 (60 例)、都城 (15 例)、延岡 (12 例) 保健所からの報告が多く、性別では男性が 53 例、女性が 52 例であった。年齢別では 70 歳以上が全体の約 7 割を占めた。

3) 三類感染症

腸管出血性大腸菌感染症 27 例、腸チフス 1 例が報告された。

a) 腸管出血性大腸菌感染症

Enterohemorrhagic *Escherichia coli* infection

報告数は 27 例で、前年 (66 例) の約 0.4 倍であった。患者が 15 例、無症状病原体保有者が 12 例であった。O 血清型別では、O111 が 10 例、O157 が 4 例、O26 が 3 例、O115、O146 が各 2 例、O20 が 1 例、不明が 5 例であった (表 2)。都城 (16 例)、宮崎市 (6 例)、高鍋 (2 例)、延岡、小林、日向 (各 1 例) 保健所からの報告であった。年齢別では 0~4 歳が全体の約 3 割と多く、発生月別では、11 月が全体の約 3 割を占めた。また、1 件の集団発生事例が報告されており、都城保健

所管内で 11 月末から 12 月にかけて発生し O111 が多く報告された。

表 2 O 血清型別報告数

O 血清型	報告数
O111	10
O157	4
O26	3
O115	2
O146	2
O20	1
不明	5
計	27

b) 腸チフス Typhoid fever

報告数は 1 例で、宮崎市保健所からの報告であった。患者はバングラデシュへの渡航歴があり、性別は女性、年齢は 30 歳代であった。主な症状として高熱、比較的徐脈、バラ疹、下痢、便秘がみられた。

4) 四類感染症

E 型肝炎 1 例、重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 12 例、つつが虫病 33 例、日本紅斑熱 14 例、レジオネラ症 9 例及びレプトスピラ症 2 例が報告された。

a) E 型肝炎 Hepatitis E

報告数は 1 例で、宮崎市保健所からの報告であった。年齢は 60 歳代で、無症状病原体保有者であった。

b) 重症熱性血小板減少症候群

SFTS (Severe Fever with

Thrombocytopenia Syndrome)

報告数は 12 例で、宮崎市 (6 例)、高千穂、日向 (各 2 例)、日南、高鍋 (各 1 例) 保健所からの報告であった。性別は男性が 5 例、女性が 7 例で、年齢は 60 歳代が 4 例、70 歳代が 3 例、50 歳代、80 歳代が各 2 例、90 歳代が 1 例であった。主な症状として発熱、頭痛、筋肉痛、神経症状、腹痛、下痢、食欲不振、全身倦怠感、白血球・血小板減少、リンパ節腫脹、出血傾向、紫斑等がみられた。患者の発症時期は、2~7 月で、特に 6 月に多かった。

c) つつが虫病

Scrub typhus (Tsutsugamushi disease)

報告数は 33 例で前年 (41 例) の約 0.8 倍と減少した。小林 (11 例), 都城 (10 例), 宮崎市 (7 例) 保健所からの報告が多く, 性別は男性が 21 例, 女性が 12 例, 年齢別では 60 歳以上が全体の約 7 割を占めた。主な症状として頭痛, 発熱, 刺し口, リンパ節腫脹, 発疹等がみられた。患者の発症時期は例年どおり冬季で, 11 月 (16 例), 12 月 (12 例), 2 月 (2 例), 1 月, 3 月, 10 月 (各 1 例) の報告であった。

d) 日本紅斑熱 Japanese spotted fever

報告数は 14 例で, 宮崎市 (6 例), 日南, 小林 (各 3 例), 都城, 高鍋 (各 1 例) 保健所からの報告であった。性別は男性が 7 例, 女性が 7 例, 年齢は 70 歳代が 4 例と多く, 次いで 60 歳代, 80 歳代, 90 歳代が各 3 例, 50 歳代が 1 例であった。主な症状として発熱, 頭痛, 刺し口, 発疹, DIC, 肝機能異常等がみられた。患者の発症時期は 3 月から 10 月であった。

e) レジオネラ症 Legionellosis

報告数は 9 例で, 病型は肺炎型 8 例, ポンティアック熱型 1 例であった。宮崎市 (5 例), 延岡, 日南, 小林, 高鍋 (各 1 例) 保健所からの報告であった。性別はいずれも男性で, 年齢は 70 歳代が 3 例, 60 歳代, 80 歳代が各 2 例, 30 歳代, 40 歳代が各 1 例であった。主な症状として発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 意識障害, 肺炎等がみられた。

f) レプトスピラ症 Leptospirosis

報告数は 2 例で, 宮崎市, 延岡保健所からの報告であった。性別はいずれも男性で, 年齢は 5~9 歳, 70 歳代が各 1 例であった。主な症状として発熱, 筋肉痛, 結膜充血, 黄疸, 蛋白尿, 腎不全がみられた。

5) 五類感染症

アメーバ赤痢 4 例, ウイルス性肝炎 7 例, カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 3 例, 急性弛緩性麻痺 1 例, 急性脳炎 4 例, クロイツフェルト・ヤコブ病 4 例, 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 6 例, 後天性免疫不全症候群 5 例, 侵襲性インフルエンザ菌感染症 3 例, 侵襲性肺炎球菌感染症 15 例, 水痘 (入院例) 4 例, 梅毒 166 例, 播種性ク

リプトコックス症 5 例, 破傷風 2 例及び百日咳 5 例が報告された。

a) アメーバ赤痢 Amebic dysentery

報告数は 4 例で, 病型は腸管アメーバ症 3 例, 腸管外アメーバ 1 例で, 宮崎市 (2 例), 都城, 日向 (各 1 例) 保健所からの報告であった。性別は男性が 2 例, 女性が 2 例で, 年齢は 60 歳代が 2 例, 30 歳代, 50 歳代が各 1 例であった。主な症状として下痢, 粘血便, 腹痛, 発熱がみられた。

b) ウイルス性肝炎 Viral hepatitis

報告数は 7 例で, 原因病原体は B 型肝炎ウイルスが 5 例, サイトメガロウイルスが 2 例であった。宮崎市 (4 例), 延岡 (2 例), 日向 (1 例) 保健所からの報告で, 性別は男性が 5 例, 女性が 2 例であった。年齢は 20 歳代が 3 例, 10 歳代が 2 例, 30 歳代, 40 歳代が各 1 例であった。主な症状として全身倦怠感, 嘔吐, 褐色尿, 発熱, 肝機能異常, 黄疸等がみられた。

c) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

Carbapenem-resistant Enterobacteriaceae infection

報告数は 3 例であった。原因病原体は *Klebsiella pneumoniae*, *Klebsiella aerogenes*, 不明が各 1 例で, 宮崎市 (2 例), 都城 (1 例) 保健所からの報告であった。年齢は 50 歳代, 60 歳代, 70 歳代が各 1 例で, 主な症状として尿路感染症, 肺炎, 軟部組織感染がみられた。

d) 急性弛緩性麻痺 Acute flaccid paralysis

報告数は 1 例で, 原因病原体は不明であった。都城保健所からの報告であった。年齢は 10~14 歳で, 主な症状として弛緩性麻痺 (左右下肢) がみられた。

e) 急性脳炎 Acute encephalitis

報告数は 4 例で, 原因病原体はインフルエンザウイルス A が 2 例, パラインフルエンザ, 病原体不明が各 1 例であった。宮崎市保健所からの報告で, 年齢は 0~4 歳, 5~9 歳, 15~19 歳, 70 歳代が各 1 例であった。主な症状として発熱, 痙攣, 意識障害, 髄液細胞数の増加がみられた。

f) クロイツフェルト・ヤコブ病**Creutzfeldt-Jakob disease**

報告数は 4 例で, 病型は古典型クロイツフェル

ト・ヤコブ病が 3 例, 家族性クロイツフェルト・ヤコブ病が 1 例であった。いずれも宮崎市保健所からの報告で, 性別は男性が 2 例, 女性が 2 例であった。年齢は 70 歳代が 2 例, 60 歳代, 80 歳代が各 1 例であった。主な症状として進行性認知症, ミオクローヌス, 錐体路症状, 記憶障害, 無動性無言状態がみられた。

g) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

Severe invasive streptococcal infection

報告数は 6 例で, 血清群は A 群が 4 例, B 群, G 群が各 1 例で, 宮崎市 (3 例), 都城 (2 例), 延岡 (1 例) 保健所からの報告であった。年齢は 0~4 歳, 50 歳代, 60 歳代, 70 歳代, 80 歳代, 90 歳代が各 1 例であった。主な症状としてショック, 腎不全, DIC, 軟部組織炎, 中枢神経症状, 菌血症等がみられた。

h) 後天性免疫不全症候群

Acquired immunodeficiency syndrome

報告数は 5 例であった。病型は AIDS が 3 例 (指標疾患: 非ホジキンリンパ腫, ニューモシスティス肺炎, カンジダ症, サイトメガロウイルス感染症), 無症候性キャリアが 2 例であった。宮崎市 (4 例), 都城 (1 例) 保健所からの報告で, 性別はいずれも男性で, 年齢は 30 歳代が 3 例, 40 歳代, 50 歳代が各 1 例であった。感染経路は同性間性的接触 3 例, 同性間性的接触及び静注薬物, 性的接触 (異性間同性間不明) が各 1 例であった。

i) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

Invasive *Haemophilus influenzae* disease

報告数は 3 例で, 宮崎市 (2 例), 延岡 (1 例) 保健所からの報告であった。年齢は 0~4 歳, 50 歳代, 80 歳代が各 1 例で, 主な症状として発熱, 頭痛, 肺炎, 菌血症等がみられた。ワクチン接種歴は接種有りが 1 例, 不明が 2 例であった。

j) 侵襲性肺炎球菌感染症

Invasive pneumococcal disease

報告数は 15 例で, 宮崎市 (5 例), 都城 (4 例), 延岡 (3 例), 高鍋 (2 例), 日向 (1 例) 保健所からの報告であった。性別は男性が 9 例, 女性が 6 例で, 年齢は 50 歳代, 80 歳代が各 4 例, 70 歳代が 3 例, 0~4 歳, 40 歳代, 60 歳代, 90 歳代が各 1 例であった。主な症状として頭痛, 発熱, 咳,

全身倦怠感, 嘔吐, 意識障害, 項部硬直, 肺炎, 髄膜炎, 菌血症がみられた。ワクチン接種歴は接種有りが 1 例, 無しが 6 例, 不明が 8 例であった。

k) 水痘 (入院例) Chickenpox

報告数は 4 例で, 病型は検査診断例が 3 例, 臨床診断例が 1 例で, 宮崎市 (2 例), 延岡, 日南 (各 1 例) 保健所からの報告であった。年齢は 50 歳代, 60 歳代, 70 歳代, 90 歳代が各 1 例であった。主な症状として発熱, 発疹がみられ, 1 例が他疾患入院中の発症であった。ワクチン接種歴は, いずれも不明であった。

l) 梅毒 Syphilis

報告数は 166 例で, 前年 (116 例) を約 1.4 倍と上回り過去最多となった。病型は早期顕症 I 期が 69 例, 早期顕症 II 期が 54 例, 晩期顕症が 2 例, 無症状病原体保有者が 41 例であった。宮崎市 (106 例), 都城 (32 例), 延岡 (18 例) 保健所管内からの報告が多く, 性別は男性が 100 例, 女性が 66 例で, 年齢は 20 歳代が全体の約 4 割と最も多く, 次いで 30 歳代と 40 歳代が約 2 割ずつを占めた。感染経路は異性間性的接触が 108 例, 同性間性的接触が 20 例, 性的接触 (異性間・同性間不明) が 22 例, 不明が 16 例であった。主な症状として初期硬結, 硬性下疳, 鼠径部リンパ節腫脹, 梅毒性バラ疹, 丘疹性梅毒疹, 扁平コンジローマ等がみられた。

m) 播種性クリプトコックス症

Disseminated cryptococcosis

報告数は 5 例で, 宮崎市 (3 例), 延岡 (2 例) 保健所からの報告であった。年齢は 20 歳代, 50 歳代, 60 歳代, 80 歳代, 90 歳代が各 1 例で, 主な症状として頭痛, 発熱, 真菌血症がみられた。

n) 破傷風 Tetanus

報告数は 2 例で, 宮崎市保健所からの報告であった。年齢は 60 歳代, 70 歳代が各 1 例であった。主な症状として筋肉のこわばり, 開口障害, 嚥下障害, 発語障害, 痙攣がみられた。

o) 百日咳 Pertussis

報告数は 5 例と昨年 (15 例) の約 0.3 倍と減少した。日向 (2 例), 都城, 延岡, 日南 (各 1 例) 保健所からの報告で, 性別は男性が 1 例, 女性が 4 例であった。年齢は 0~4 歳が 3 例, 15~19 歳

が 2 例で、ワクチンの接種歴は有り、無しが各 2 例、不明が 1 例であった。主な症状として持続する咳、夜間の咳き込み、呼吸苦、白血球数増多がみられた。

6) 新型インフルエンザ等感染症

a) 新型コロナウイルス感染症

Corona-Virus Disease-2019

新型コロナウイルス感染症は、2023 年第 18 週までは全数把握を行っていたが、第 19 週以降は 5 類定点把握対象疾患となった。この項目では第 18 週までの内容を記載し、第 19 週以降については次項の定点把握対象疾患の発生状況で記載する。

2023 年第 1 週から第 18 週までの報告数は 57,256 例で、陽性者の居住地保健所別では、宮崎市保健所が全体の約 4 割を占め、次いで都城保健所が約 2 割、延岡保健所が約 1 割となった。年齢別では 40 歳代が 15%、30 歳代が 13%、20 歳代、50 歳代が各 12%を占めた。また、週ごとの感染者数は図 1 のとおりであった。

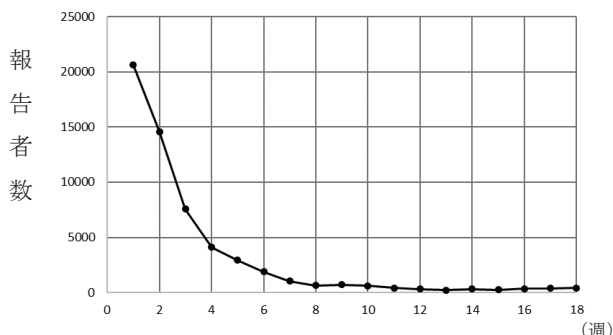


図 1 新型コロナウイルス感染症
週ごとの感染者数推移

2 定点把握対象疾患の発生状況

1) インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症及び小児科対象疾患

報告総数は 66,619 人、定点当たりの報告数は 1462.1、前年の 2.3 倍、過去 5 年間の平均値（以下、「例年」という。）の約 1.7 倍、全国の 1.4 倍であった。（いずれも新型コロナウイルス感染症は除いた数値）

各疾患の発生状況の概要は表 3、経時的発生状況は図 2 のとおりで、その概略を次に示す。

a) インフルエンザ Influenza

2023/2024 年シーズンの報告総数は 36,866 人、定点当たりの報告数は 635.6 で、前シーズンの約 3.6 倍、例年の約 4.5 倍、全国の約 1.3 倍であった。延岡 (919.1)、中央 (796.5)、高鍋 (680.3) 保健所からの報告が多く、年齢別では 15 歳未満が全体の 76%を占めた。

b) 新型コロナウイルス感染症

Corona-Virus Disease-2019

第 19 週から第 52 週までの報告総数は 18,553 人、定点当たりの報告数は 319.9 で、全国の約 1.2 倍であった。延岡 (481.6)、高千穂 (424.5)、中央 (339.0) 保健所からの報告が多く、年齢別では 15 歳未満が全体の 43%を占めた。

c) R S ウイルス感染症

Respiratory syncytial virus infection

報告総数は 2,512 人、定点当たりの報告数は 69.8 で、前年の約 1.1 倍、例年と同程度で、全国の約 1.5 倍であった。中央 (177.0)、高鍋 (77.8)、宮崎市 (77.0) 保健所からの報告が多く、年齢別では 3 歳以下が全体の 92%を占めた。

d) 咽頭結膜熱 Pharyngoconjunctival fever

報告総数は 2,107 人、定点当たりの報告数は 58.5 で、前年の約 4.3 倍、例年の約 2.0 倍、全国と同程度であった。中央 (122.0)、宮崎市 (86.4)、都城 (84.8) 保健所からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 5 歳が全体の 76%を占めた。

e) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

Group A streptococcal pharyngitis

報告総数は 4,036 人、定点当たりの報告数は 112.1 で、前年の 5.3 倍、例年の約 1.2 倍、全国の約 1.3 倍であった。都城 (179.0)、中央 (162.0)、日南 (157.7) 保健所からの報告が多く、年齢別では 4 歳から 7 歳が全体の 52%を占めた。

f) 感染性胃腸炎 Infectious gastroenteritis

報告総数は 13,502 人、定点当たりの報告数は 375.1 で、前年の約 1.3 倍、例年の約 1.1 倍、全国の約 1.5 倍であった。小林 (672.0)、中央 (506.0)、都城 (478.0) 保健所からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 4 歳が全体の 51%を占めた。

g) 水痘 Chickenpox

報告総数は 180 人、定点当たりの報告数は 5.0 で、前年の約 0.9 倍、例年の約 0.4 倍、全国と同

程度であった。日南 (8.3), 宮崎市 (6.9), 中央 (6.0) 保健所からの報告が多く, 年齢別では 10 歳未満が全体の 77% を占めた。

h) 手足口病 Hand, foot and mouth disease

報告総数は 3,022 人, 定点当たりの報告数は 83.9 で, 前年の約 2.0 倍, 例年と同程度で, 全国の約 2.6 倍であった。延岡 (128.5), 日向 (105.8), 宮崎市 (101.3) 保健所からの報告が多く, 年齢別では 1 歳から 3 歳が全体の 72% を占めた。

i) 伝染性紅斑 Erythema infectiosum

報告総数は 21 人, 定点当たりの報告数は 0.6 で, 前年の約 0.9 倍, 例年の約 0.1 倍, 全国の約 0.8 倍であった。中央 (2.0), 日南 (1.0), 宮崎市 (0.8) 保健所からの報告で, 年齢別では 6 ヶ月から 3 歳が全体の 81% を占めた。

j) 突発性発しん Exanthem subitum

報告総数は 887 人, 定点当たりの報告数は 24.6 で, 前年の約 0.9 倍, 例年の約 0.7 倍, 全国の約 1.9 倍であった。宮崎市 (33.5), 小林 (32.7), 都城 (23.7) 保健所からの報告が多く, 年齢別では 6 ヶ月から 1 歳が全体の 87% を占めた。

k) ヘルパンギーナ Herpangina

報告総数は 3,409 人, 定点当たりの報告数は 94.7 で, 前年の約 16.2 倍, 例年の約 3.1 倍, 全国の約 1.5 倍であった。延岡 (131.3), 小林 (115.3), 宮崎市 (111.4) 保健所からの報告が多く, 年齢別では 1 歳から 4 歳が全体の 76% を占めた。

1) 流行性耳下腺炎 Mumps

報告総数は 77 人, 定点当たりの報告数は 2.1 で, 前年の約 1.5 倍, 例年の約 0.2 倍, 全国と同程度であった。中央 (7.0), 延岡 (5.5), 都城 (2.5) 保健所からの報告が多く, 年齢別では 3 歳から 8 歳が全体の 81% を占めた。

2) 眼科及び基幹定点対象疾患

眼科定点対象疾患の報告総数は 346 人, 定点当たりの報告数は 57.7 で, 前年の約 2.5 倍, 例年の約 0.9 倍, 全国の約 2.2 倍であった。

基幹定点対象疾患の報告総数は 4 人, 定点当たりの報告数は 0.6 で, 前年の 4 倍, 例年及び全国の約 0.1 倍であった。

a) 急性出血性結膜炎

Acute hemorrhagic conjunctivitis

報告総数は 4 人, 定点当たりの報告数は 0.7 で, 前年と同率で, 例年の約 3.3 倍, 全国の約 1.1 倍であった。年齢別は 0~4 歳が 2 例, 40 歳代, 70 歳代以上が各 1 例であった。

b) 流行性角結膜炎

Epidemic keratoconjunctivitis

報告総数は 342 人, 定点当たりの報告数は 57.0 で, 前年の約 2.6 倍, 例年の約 0.9 倍, 全国の約 2.2 倍であった。年齢別では 10 歳未満が全体の 29% を占めた。

c) 細菌性髄膜炎 Bacterial meningitis

報告総数は 1 人, 定点当たりの報告数は 0.1 で, 例年の約 0.7 倍, 全国の約 0.2 倍であった (前年報告なし)。年齢は 0~4 歳で, 原因菌は *Streptococcus Agalactiae* であった。

d) 無菌性髄膜炎 Aseptic meningitis

報告総数は 2 人, 定点当たりの報告数は 0.3 で, 前年及び例年の 2.0 倍で, 全国の約 0.2 倍であった。年齢はいずれも 10 歳代で, 原因菌は, 1 例は *Varicella zoster virus* で, 1 例は不明であった。

e) マイコプラズマ肺炎

Mycoplasmal pneumonia

報告総数は 1 人, 定点当たりの報告数は 0.1 で, 例年の 0.2 倍, 全国の約 0.1 倍であった (前年報告なし)。年齢は 10 歳代であった。

f) クラミジア肺炎 Chlamydial pneumonia

報告はなかった。

g) 感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)

Infectious gastroenteritis (only by Rotavirus)

報告はなかった。

3) 月報告対象疾患

性感染症の報告総数は 477 人, 定点当たりの報告数は 36.7 で, 前年及び例年の約 1.1 倍, 全国の約 0.6 倍であった。

薬剤耐性菌感染症の報告総数は 235 人, 定点当たりの報告数は 33.6 で, 前年の約 0.9 倍, 例年の約 1.1 倍, 全国と同程度であった。

a) 性器クラミジア感染症

Genital chlamydial infection

報告総数は 281 人, 定点当たりの報告数は 21.6

で、前年及び例年の約 1.1 倍、全国の約 0.7 倍であった。都城 (34.0)、宮崎市 (28.5)、延岡 (23.0) 保健所からの報告が多かった。性別は男性が約 3 割、女性が約 7 割で、年齢別では 20 歳代が全体の 64% を占めた。

b) 性器ヘルペスウイルス感染症

Genital herpes simplex virus infection

報告総数は 83 人、定点当たりの報告数は 6.4 で、前年の約 1.3 倍、例年と同程度で、全国の約 0.7 倍であった。日南 (48.0)、高鍋 (8.0)、日向 (7.0)、宮崎市 (3.0) 保健所からの報告であった。性別は男性が約 1 割、女性が約 9 割で、年齢別では 30 歳代から 40 歳代が全体の 52% を占めた。

c) 尖圭コンジローマ *Condyloma acuminatum*

報告総数は 28 人、定点当たりの報告数は 2.2 で、前年の 2.0 倍、例年の約 1.6 倍、全国の約 0.3 倍であった。宮崎市 (5.8)、日南 (3.0)、日向 (1.0)、高鍋 (0.5) 保健所からの報告であった。性別は男性が約 2 割、女性が約 8 割で、年齢別では 20 歳代が全体の 50% を占めた。

d) 淋菌感染症 *Gonorrhea*

報告総数は 85 人、定点当たりの報告数は 6.5 で、前年の約 0.8 倍、例年の約 1.1 倍、全国の約 0.7 倍であった。延岡 (15.5)、都城 (13.0)、高鍋 (5.0)、宮崎市 (4.5) 保健所からの報告であった。性別は男性が約 8 割、女性が約 2 割で、年齢別では 20 歳代が全体の 47% を占めた。

e) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

Methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* infection

報告総数は 235 人、定点当たりの報告数は 33.6 で、前年の約 0.9 倍、例年の約 1.1 倍、全国と同程度であった。年齢別では 70 歳以上が全体の 70% を占めた。

f) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 *Penicillin-resistant Streptococcus pneumoniae* infection

報告はなかった。

g) 薬剤耐性緑膿菌感染症

Multidrug-resistant *Pseudomonas aeruginosa* infection

報告はなかった。

まとめと考察

全数把握対象疾患のうち、結核は 0 歳から 90 歳代まで幅広い年齢層で報告された。病型で比較すると、肺結核が全体の 4 割を占め、年齢別では 70 歳以上が全体の約 7 割を占めた。また、梅毒は昨年の約 1.4 倍と増加し、5 年連続過去最多を更新した。全国的にも年々増加傾向であり、県内での報告数も増加しているため、今後も動向に注意する必要がある。また、新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の位置づけが新型インフルエンザ等感染症から 5 類定点把握対象疾患へ分類されたことにより、政府として一律に感染症対策を求めることはなくなった。感染症発生動向調査事業では、全数把握からインフルエンザ等と同様の定点医療機関からの定点把握となり、転換期であった。

定点対象疾患のインフルエンザ及び小児科対象疾患の定点当たりの報告数は、前年の 2.3 倍、例年の約 1.7 倍、全国の 1.4 倍であった。インフルエンザについて報告数は昨年の 10,170 人を上回る 36,866 人、定点当たりの報告数 635.6 と前年の約 3.6 倍、例年の約 4.5 倍となり、流行の年となった。また、ヘルパンギーナは前年の約 16.2 倍となり、例年及び全国と比べ報告数が多かった。

眼科定点対象疾患のうち、そのほとんどの報告数を占める流行性角結膜炎は、例年の約 0.9 倍と少なかったが、全国の約 2.2 倍と多く、例年通りの傾向であった。

基幹定点対象疾患の報告数は前年の約 4 倍、例年及び全国の約 0.1 倍であった。

月報告対象疾患の性感染症の報告数は前年及び例年の約 1.1 倍、全国の約 0.6 倍であった。性器ヘルペスウイルス感染症は 30 歳代から 40 歳代に多く、それ以外の疾患は 20 歳代に多く認められた。また、薬剤耐性菌感染症は前年の約 0.9 倍、例年の約 1.1 倍、全国と同程度であった。

本調査結果から、疾患によって流行発生時期や地域差、年齢差等があることが分かった。今後も引き続き、感染症情報の収集と解析を的確・迅速に行い、感染症の発生動向に細心の注意を払うとともに、幅広い世代に適切な情報の提供と感染予

防の啓発を行っていく必要があると考えられる。
備考)

感染症発生動向調査事業は、患者情報と病原体情報から構成されており、当研究所の微生物部では病原体情報を得ている。

文献

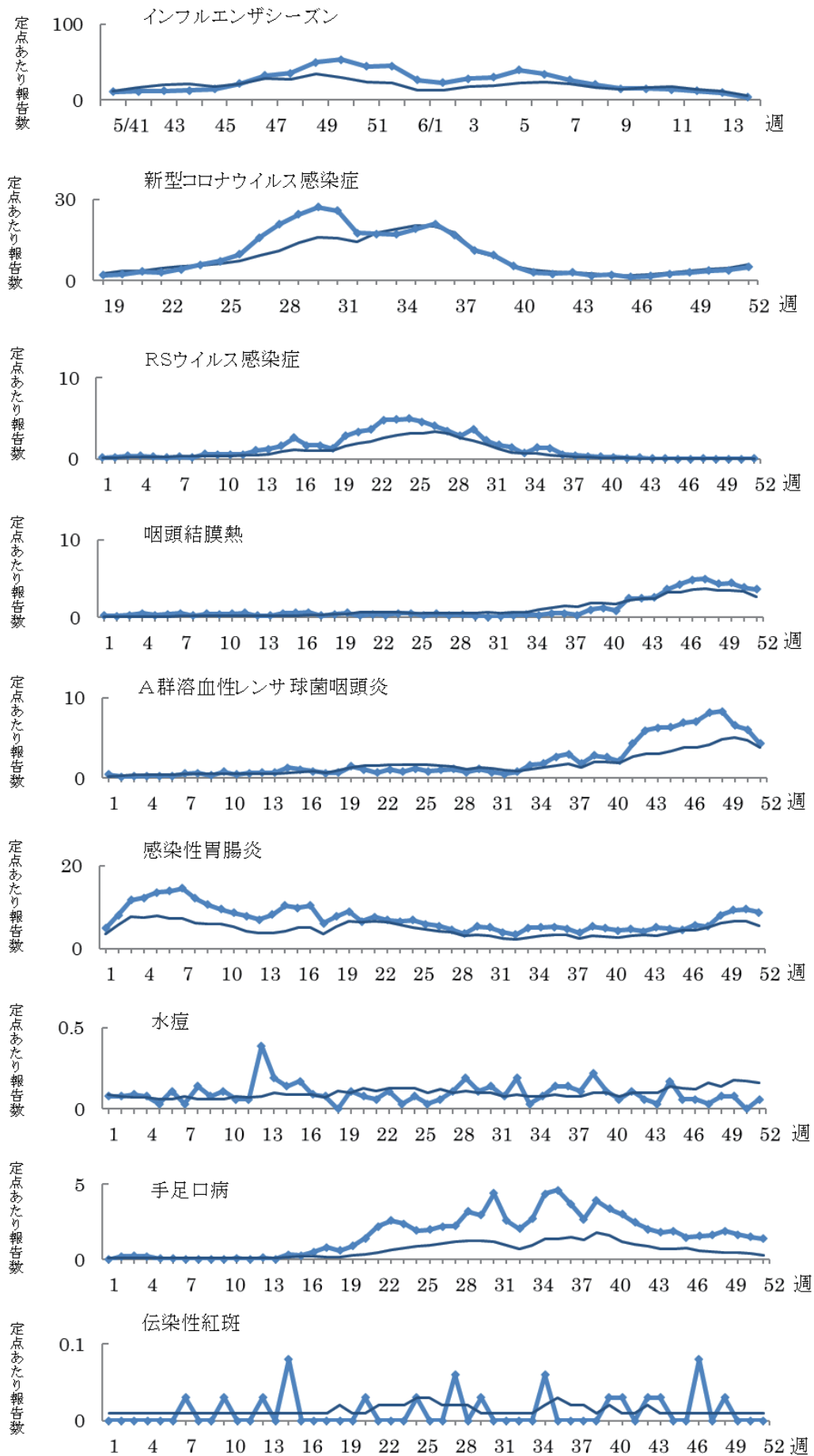
1) 厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部事務連絡:With コロナの新たな段階への移行に向けた全数届出の見直しについて、令和

4 年 9 月 22 日。

2) 厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部事務連絡:新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付け変更後の基本的な感染対策の考え方について (令和 5 年 5 月 8 日以降の取扱いに関する事前の情報提供), 令和 5 年 3 月 31 日。

3) 厚生労働省保健医療局長通知:感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律の施行に伴う感染症発生動向調査事業の実施について、平成 11 年 3 月 19 日健医発第 458 号。

図 2 定点把握対象疾患（週報告対象）の定点あたり報告数の週推移（経時発生状況）



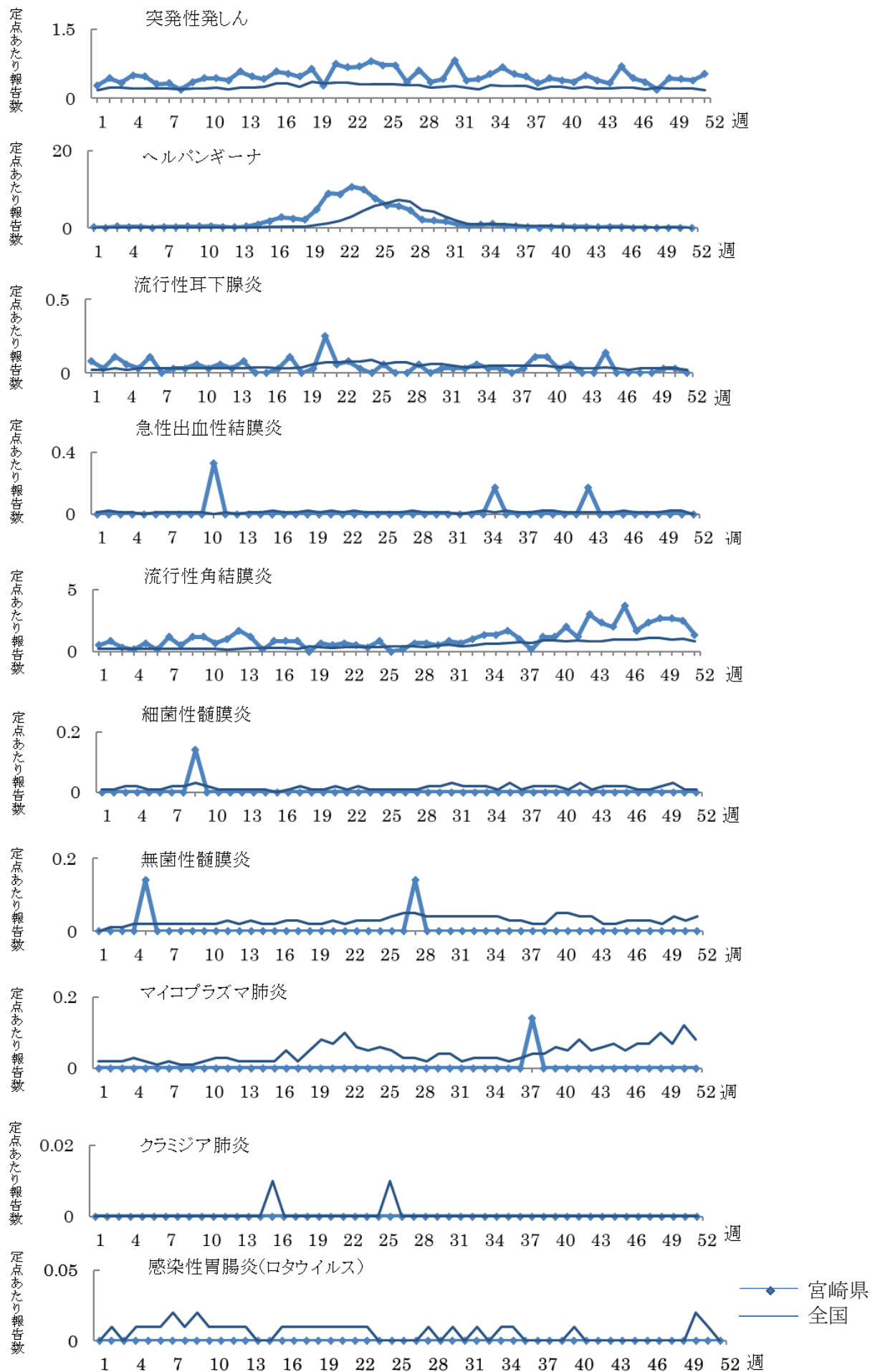


表 3 定点把握対象疾患の発生状況の概要 (宮崎県, 2023 年)

疾患名	報告総数	定点あたり 報告数	年齢群別報告数の割合		昨年比 (県内2022年) (%)	過去5年間の 平均との比 (%)	全国比 (2023年) (%)
			好発年齢群	報告総数に 占める割合 (%)			
インフルエンザ	36,866	635.6	15歳未満	77	362	447	128
新型コロナウイルス感染症	18,553	319.9	15歳未満	43	—	—	115
RSウイルス感染症	2,512	69.8	3歳以下	92	114	102	151
咽頭結膜熱	2,107	58.5	1歳～5歳	76	429	198	103
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	4,036	112.1	4歳～7歳	52	530	120	132
感染性胃腸炎	13,502	375.1	1歳～4歳	51	133	109	154
水痘	180	5.0	10歳未満	77	89	37	97
手足口病	3,022	83.9	1歳～3歳	72	204	96	263
伝染性紅斑	21	0.6	6カ月～3歳	81	88	5	82
突発性発しん	887	24.6	6カ月～1歳	87	88	68	190
ヘルパンギーナ	3,409	94.7	1歳～4歳	76	1616	314	153
流行性耳下腺炎	77	2.1	3歳～8歳	81	154	22	98
急性出血性結膜炎	4	0.7	0歳～4歳	50	100	333	109
流行性角結膜炎	342	57.0	10歳未満	29	255	85	218
細菌性髄膜炎	1	0.1	0歳～4歳	100	—	71	17
無菌性髄膜炎	2	0.3	10歳代	100	200	200	19
マイコプラズマ肺炎	1	0.1	15～19歳	100	—	20	6
クラミジア肺炎	0	0.0	—	—	—	0	0
感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)	0	0.0	—	—	—	0	0
性器クラミジア感染症	281	21.6	20歳代	64	108	112	68
性器 ヘルペスウイルス感染症	83	6.4	30歳代～40歳代	52	128	103	66
尖圭コンジローマ	28	2.2	20歳代	50	200	161	32
淋菌感染症	85	6.5	20歳代	47	83	113	67
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	235	33.6	70歳以上	70	86	113	104
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	0	0.0	—	—	0	0	0
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.0	—	—	—	0	0